

## 山丹服・蝦夷錦の構成について (2)

日野伊久子

(昭和女子大学)

【目的】「アイヌ民族服飾の復元・保存及び文化に関する研究」を目的として、北海道開拓記念館所蔵の山丹服・蝦夷錦について継続的に実測調査を行ってきた。前報では調査資料 13 点の形態の分類及び構成特徴について報告した。今回は、13 点の中から保存状態の良好な衣服 3 点を取り上げ形態、寸法、縫製技法等の実測調査の結果を報告する。

【方法】目視による判定結果から保存状態の良好な資料 3 点を選んだ。補服 1 点、青地蟒袍 1 点、赤地襖子 1 点である。各資料の構成特徴を記録し、形状を把握した上で計測した。計測個所は、被服構成上必要と思われる基本的な部位について採寸した。資料を机上に置き、ものさし、巻尺で計測し記述は cm で示した。縫製調査では、縫い方の種類、針目の状態、縫い糸の色や素材、布地と糸の関係等について記述した。また縫製技法の観察のために 3 cm 間の針目数を記録した。

【結果】1) 補服：形状は、筒袖、丸襟、前中心明きの対丈衣服で、裏地付きの夏服である。両脇と後ろ中心にスリット明きがある。縫製は手縫いの半返し縫い、裏地にはミシン縫いが観察された。袖口、裾、襟、前身頃の見返しに紙芯が用いられている。2) 青地蟒袍：馬蹄袖、曲襟で対丈、身幅は狭い。スリット明きは前後身頃の中心にある。衿仕立てのため縫い方や針目数は判別しにくいが緻密な技術が窺える。背縫いと脇縫いには表地と裏地が分離しないように中とじがしてある。3) 赤地襖子：広袖で身丈は 117 cm と短い衿仕立ての衣服で、身頃は前中心明きで両脇にスリット明きがある。襟は詰襟で襟元にカギホック 1 組と、前打合せに 2 本の紐が付いている。縫製技術は精巧である。